報道関係各位

2026 年 1 月 14 日

臨床検査技師が AI に勝てる場はどこにある？

# 「臨床検査 DX と AI 技術」が 臨床検査技師に与えるインパクト

## ～検査室の外で評価される時代に臨床検査技師が AI に勝てる場はどこにある？～

JAMT マガジン 2026 年 1 月号特集より

近年、医療現場にも DX 化と AI 技術が広く推進されるようになってきました。臨床検査においては、将来的には自動化・ロボティクス化によって無人に近い状況になると言われています。「臨床検査 DX と AI 技術」により、臨床検査技師はどう変化していくのか。

1990 年代半ばより医療現場の DX、AI 導入を進めてきた石川県七尾市の「けいじゅヘルスケアシステム」の理事長で全日本病院協会会長である神野正博先生と、当会の代表理事会長である横地常広が、今後の臨床検査技師の在り方について対談しました。臨床検査技師及び衛生検査技師の職能団体である一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（東京都大田区）の会員向け広報誌 JAMT マガジン 2026 年 1 月号での特集をサマリーとしてまとめています。

**【ポイント】**

■臨床検査 DX、AI の導入で臨床検査技師の仕事と役割は大きく変容していく。幅広い基礎力と、高い専門性をもつことで臨床から求められる人材となりうる

■臨床検査技師は技術革新により職域が失われるのではなく、新たな医療現場でのニーズに応え、多職種連携医療の一員として診療支援を担っていく存在へ

■今後、地域と連携した医療・介護・生活を支える医療エコシステムが構築されていく。臨床検査技師は病院内外で価値を発揮し、医療エコシステムを支える人材であることが求められる

左：けいじゅヘルスケアシステム理事長　神野正博先生
右：日本臨床衛生検査技師会　代表理事長　横地常広

## 臨床検査室の外へ広がる臨床検査技師の役割

病院全般の効率化という面において、臨床検査 DX や AI を導入することで、人員配置基準、あるいは専従要件の見直しができ、効率的でより良い医療を提供するためのチーム医療の質があがるきっかけになると考えられます。また、検査業務ではオートメーション化が進み、臨床検査技師の役割は測定からデータの品質管理へと変化しています。技術革新による効率化で生まれた時間を、説明業務やタスク・シフト／シェアなどで、診療支援へ活かすことが重要であり、特に、人対人のコミュニケーションの質が価値を左右すると思われます。

今後、臨床検査技師には単なるテクニシャンではなく、病棟やオペ室など臨床現場で活躍し、病院全体の業務再編の中で信頼され選ばれる存在となることが求められます。そのためにも基礎力と専門性を兼ね備えた人材育成が不可欠であると考えられます。

## ジェネラリストを基盤とした専門性の深化

今の医療において目指すべき姿は、ルーチンワークをこなすだけではなく、ジェネラリストでありながら臨床から信頼される専門性を備えた臨床検査技師です。検査データだけでなく患者像を捉えるための幅広い知識と技術を磨き、臨床から相談される存在になることが重要だと考えられます。基礎的な知識と技術を広く身に付けたうえで、軸となる専門性を持ち、さらに複数の専門性を重ねることで診療支援の幅は広がります。専門分野に特化して、研究室や企業、教育機

関などで活躍する臨床検査技師も必要ですが、職能団体として臨床から信頼される人財の育成も必要だと考えています。日臨技では専門学会と連携し、研修会や VOD を通じて、全国どこからでも学べる環境整備を進めており、会員の継続的な学びの場となることを期待しています。

## 変化する医療ニーズに対応する体制づくり

臨床検査技師の業務は測定機器や試薬の技術革新により、実務的に任せられる業務は新技術に委ね、臨床検査室内にデータ品質を保証する管理部門を設けることが理想的です。従来の分野別管理ではなく、患者単位で検査データや電子カルテ情報を統合し、アルゴリズムで正当性を確認する体制が今後実現していくでしょう。

自動化によって生まれた時間を活用し、臨床検査技師が必要とされる新たな場でニーズを創出することができると考えられます。多職種連携医療の一員として診療支援を担い、患者の顔が見える現場で専門性を発揮することで、これまでとは異なるやりがいが生まれると想定されます。技術革新により職域が失われるのではなく、変化する医療ニーズに応じて、現状維持ではなく自信をもって新たな評価の場へ踏み出してもらいたいと考えています。例えば、超音波検査は複数職種が担い、担当は施設の実情に応じて決定されていますが、近年は病棟常駐により、臨床検査技師が迅速に対応する事例も増えています。医療ニーズの変化に伴い、イノベーションは今後も進むでしょう。

## 病院を超えたエコシステムの構築

神野先生が理事長を務める石川県七尾市の恵寿総合病院病院では、1993 年に SPD システムを導入し、現在は RPA や AI による記録・レポート作成、モバイル端末での情報共有を実現しています。その経験から、DX は段階的ではなく一気に進めることが重要であり、患者が自身の検査データを閲覧できる体制と、データの質への責任が求められると感じています。勤務時間内に業務を完結させる生産性向上は重要であり、余力が生まれれば職種横断的な業務や副業も柔軟に認められ得ると考えられます。

「けいじゅヘルスケアシステム」が目指しているのは、入院治療で完結せず、退院後の生活や健康維持まで関与する地域完結型の医療エコシステムです。病院、施設、地域の事業者が連携し循環する仕組みを構築することで、急性期拠点病院は重症患者に特化し、「治す医療」と「治し支える医療」の役割分担が明確になると考えられます。さらに、通院困難な高齢者を支えるため、医療・介護・生活を一体で支えるエコシステムの構築が不可欠だと考えています。これからの臨床検査技師は、エコシステムを支える人材であることが求められると思われます。

**特集記事はこちらからも**
**ご覧いただけます。**

## 「一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会」について

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会（Japanese Association of Medical Technologists：JAMT）は昭和 27 年に発足した日本衛生検査技術者会が前身となり発展してきました。創立当初、検査技師に対する一般の認識は低いものでしたが、私達の活動を通じ、高度な検査技術を持つ技師の重要性が広く社会に認知されつつあります。また各国の検査技師会との交流を通じ、医療の国際化にも貢献しています。

**【概要】**

◇名　称　：一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
◇所在地　：〒143-0016 東京都大田区大森北 4 丁目 10 番 7 号
◇代表者　：代表理事会長　横地 常広
◇創　立　：昭和 27 年 7 月 27 日
◇ＵＲＬ　：https://www.jamt.or.jp/

◇事業内容:

1. 公益目的事業

1)臨床検査精度保証事業 2)臨床検査精度管理調査事業

2. 学術・職能支援事業

1)学術・技術振興事業 2)学術・職能教育研修事業 3)厚生労働大臣指定講習会 4)国際協力事業
5)会誌「医学検査」発行 6)学会開催 7)JAMT 技術教本出版 8)支部運営 9)日臨技認定制度

3. 政策渉外・組織強化事業

1)法・渉外活動 2)組織対策・組織運営 3)共済事業 4)調査研究


【読者・視聴者のお問合せ】
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
jamt@jamt.or.jp



【報道各位のお問合せ】
PR 事務局（共同 PR 内） jamt-pr@kyodo-pr.co.jp
担当：大沢 090-5337-6263 小松 090-6001-1395
オンラインプレスルーム https://www.pr-today.net/a00536/